

第1分科会 ワークショップ

鳥の劇場 ～プロ俳優に学ぶ表現～

指導者 鳥の劇場 中島 諒人 様

日程：2018年8月23日（木）

会場：米子市文化ホール イベントホール

参加人数：23名

【シアターゲーム（身体を動かしながら感じてみる）】

…身体を動かしてシアターゲームをたのしみながら、演じる際に大事なポイントとなる「目の前で起こっていることに自ら関わる」「相手の発信したものを受け取り、瞬時に反応する」「他者へとはっきり伝える」ことを考える。

①バースデーライン

（ひじで自分の誕生日を相手に知らせ、全員の誕生日がつながるように輪になっていく。）

②まねしてポーズ 名前でシャキーン

（自分の名前にポーズをつけ、みんなで同じように真似をして動く）

☆①②：ひじの動きで相手がしていることが伝わった。

目線や笑顔で相手に伝わったことがわかる。

全身を使ったコミュニケーションは普段と違い、エネルギーを使うが新鮮な刺激である。



多様なコミュニケーション…表情が豊かで、安心感がある。



③みんなで一つの「^{はてな}？」ゲーム

（「〇人で一つの…をつくる」 数人でグループを作りお題に沿って全身を使って身体で表現する）

☆ 子どもが行う場合は、「〇人で」という人数でのつまずきや難しさがある。

難しさ：言葉を使わずに誰がどこをするのか

イメージの違いをどこでどう合わせるか

→言葉で喋ってしまうと誰かがリーダーになり、残りの人が従うだけになってしまう。



・喋らずに身体のみで表現することで、相手がしていることを読み取ろうとする。

- ・動きに何か足りない→数名で表現することで誰かが動きを足す
→表現が良くなる

言われたとおりにやるだけでなく考えて表現してみる。



【簡単なお芝居をつくってみる（グループ）】

○絵本「おおかみと7ひきのこやぎ」を題材に、物語の冒頭の1シーンをグループで表現する。

- ・各グループの中で 母ヤギ役、子ヤギ役を決める
- ・音楽をかけ、流れている間に物語を身体で表現する。

○「かちかちやま」の物語の1シーンを全員で身体を使って表現する。



- ・動物(人間ではないもの)をどう身体で表現するか
→見ている子どもたちが、物語の幸福感を見て、日々過ごしている幸福を「僕みたいだ」と感じられるか。
- ・演じることの楽しさや魅力
- ・人と一緒にすることで世界観を作ることができ、より楽しめる。
- ・日常から離れてなりきることへの満足感がある。
- ・同じ空気が感じられる。

<表現をしてみた感想>

- ・ 自分がやりたかった表現を同じグループの人たちと一緒に作り出せた時の喜びを感じられた。
- ・ 見ている人たちに伝わった時の充実感
- ・ 初めての人とでも関わりをもち、物語の雰囲気を出すことができた。
- ・ 見る人と演じる人の関係の中に表現があり、相手に伝わったときの喜びがあった。
- ・ もっとよくしようという気持ちをどう持つか。みんなが目標を持って演じていくことの大切さを感じられた。

<講評（現場で生かす方法）>

- ・ 資質・能力の3つの柱…能力だけでなく、人間性も育てていく。
- ・ 幼児期の子どもに「やってみよう」という気持ちを1年生になるまでにどれだけ身につけられるか。
- ・ ポジティブにやる姿勢が大切である。
やってみよう という気持ちを持つ人と、やめておこう という気持ちを持って過ごす人とは、人生でのロスが大きく違う。
- ・ 保育者の演じる真剣な姿に子どもたちは驚き、“やってみたい”“自分もやってみようかな”という気持ちになっていく。
- ・ 子どもたちから出てきた言葉や動きなどを拾って物語の中に取り入れていく。子どもたちと対話をしながら作っていく。保育者と子どもたちが関わり合いながら作っていくとよい。
- ・ これまでの体験の要素を取り入れ、せりふに組み込んでいく。
- ・ 自分たちで考えた物語が特別になっていくのではないか。

